

第40回環境審議会議事要旨

日 時 平成29年8月22日（火）
午後3時00分から4時45分まで
会 場 秋田市本庁舎6階6-A会議室

1 出席者

- (1) 秋田市環境審議会委員（15名中9名出席）
菅原拓男委員、黒澤薫委員、杉山秀樹委員、高橋敦子委員、
高橋大輔委員、竹田勝美委員、寺山雅子委員、縄田浩志委員、
村田勝敬委員
- (2) 秋田市環境部
中島修環境部長、佐々木琢宏環境部次長
環境総務課：伊藤健課長、三浦勉地球温暖化対策担当課長、
竹内元副参事、畠山高朗主席主査、伊藤雅人主任

2 次 第

- (1) 開 会
- (2) 環境部長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 議 事
秋田市環境基本計画の改定について
- (5) そ の 他
- (6) 閉 会

中島環境部長、菅原会長のあいさつに続き議事に入る。

秋田市環境基本計画の改定について、環境総務課より説明を行い、質疑が行われた。

【質疑内容】

4(1) 秋田市環境基本計画の改定について

委員	素案に突然専門用語が出てくる箇所があり、市民にわかりやすい文言で表現した上で、資料編の用語解説とリンクするように構成した方が良いのではないか。具体的には素案54ページ目の「BOD」、81ページ目の「HEMS」および90ページ目の「BEMS」等である。
環境総務課	わかりやすい表現に修正した上で、専門用語にアスタリスクを付けて併記する等して、用語解説とリンクできるようにすることを検討する。
委員	素案の82ページ目と90ページ目に緑のカーテンの写真が掲載されているが、前者はコラムと関係があり必要と考えられるが、後者は前文と関係性がないと思われる。削除してはどうか。
環境部長	市としては、なるべく空白を無くすように写真を掲載した。当該写真は、再生可能エネルギー等の写真に差し替えることを検討する。
委員	素案の本文が99ページあるが、その中にコラムが15個ある。全体的にコラムが多すぎると感じる。
環境総務課	文書だけでは計画が堅いイメージになってしまうため、広く関心を持ってもらえるようにコラムで和らげる意図がある。
環境部長	計画は抽象的になるが、コラムは具体的に表現することができるので、環境行政として力を入れていきたいことを盛り込んでいる。
委員	テクニカルタームに「」が付いたり付かなかったりするので統一

した方が良いのではないか。具体的には23ページ目の「絶滅の恐れのある希少種」、42ページ目の「あきた次世代エネルギーパーク」、82ページ目の「緑のカーテン」および91ページ目の「まちの美化」等である。

環境部長

テクニカルタームと固有名詞は違うものと考えており、強調する場合は「」を付けたり、意図的に付けなかったりしているため、内容をもう一度精査し、統一を図りたい。

委員

22ページ目の海岸域の説明において、水域（沿岸）の現状についての説明が含まれていないため、その概念を加えてはどうか。また、生物相は決して豊かではないと記載があるがこれの意味が分からない。

環境部長

説明に水域が含まれていないため生物相が豊かではないとの表現になっている。また、この表現は平成18年作成の「秋田市のいきもの」に記載されている内容となっている。

会長

時間が限られているので、後日直接、内容を詰めてはどうか。

委員

素案において、「あきた」と「秋田」の併用があるが、どのように使い分けているのか。具体的には、43ページは「秋田らしい」となっており、58ページは「あきたらしい」となっている。

環境総務課

「秋田市」という場合には漢字を使用している。「あきた」に関しては、表現を柔らかくしたい場合にはひらがなを使用している。

環境部長

ひらがな表記には、柔らかさに加え、親しみやすさもあり、43ページの表現はひらがな表記に修正する。

委員

素案に付属する資料編には、内容が詳しく正確に記載されている必要があると考えているが、例えば124ページの「適応策」は、人により捉え方が異なるのではないか。また、125ページの「特定外来生物」は、根拠となる法律名を追記した方が良いのではないか。117ページ目の「環境への負荷」は、抽象的すぎないか。

環境部長	IPCCの資料では「緩和と適応」という表現になっているため、資料編の内容を修正する。「環境への負荷」は、本文の使用箇所とリンクさせてわかりやすくする。
委員	素案の53ページに、施策3として「越境汚染対策の推進」を追加してはどうか。中国からの黄砂、光化学オキシダントおよび微小粒子状物質等の情報を把握し、公表するなど。
環境部長	追加する。
委員	素案の37ページのイラスト中の「環境保全型住宅」は、抽象的すぎてわからないのではないか。
環境部長	用語が適正かどうか精査し、説明が必要であれば資料編に追加しリンクさせる。
委員	子どもたちが見た際に、文書だけではわからないので、イラストや写真があることでイメージができるようになっているのは良いと思う。
委員	素案の83ページでフードバンクに触れているが、具体的な行動に移せるようにURLを載せたほうが良いのではないか。
環境部長	資料編にある「フードバンク」の解説にURLを記載する。
委員	素案の36ページに「恵まれたあきたの資源～」とあるが、天然ガスや石油の記述を加えてはどうか。
環境総務課	過去は八橋油田を代表する化石燃料資源を有していたこともあったが、現在では風況等の再生可能なエネルギー源を恵まれた資源と捉えている。
委員	素案の77ページ目を読むと、県内の市町村から移住してきてほしい旨が記載されているように感じるが本意はどうなのか。

環境部長 市としては、県内市町村からの移住はあまり意識しておらず、主に首都圏からの移住を意識したものである。

環境総務課 同ページ7行目の「市外からの移住者」を「県外からの移住者」に修正することを検討する。

委員 素案34ページ目の「分野横断●」の意味が分からないがどのように捉えたらよいか。

環境総務課 例えば、素案38ページ目の「分野横断Ⅳ」のような使い方のために記載した。表現がわかりにくいので「●」の部分を「Ⅰ～Ⅳ」に修正することを検討する。

委員 素案の38ページ目の次世代自動車の順番を、温室効果ガスの排出量の少ない順番に変更し、ハイブリッド自動車を燃料電池自動車の後ろに並べ替えたほうが良いのではないか。

環境総務課 検討する。

委員 素案の目次で、第5章の見出し符号が「1」の次が「環境分野1」となっており、違和感を感じる。また、第6章の内容が「基本目標1」等となっており、漠然としている。

環境部長 公文書ルールに基づき作成しているためご理解いただきたい。第6章については、表現を検討する。また、コラムについては目次に載っていないので、通し番号を付し、盛り込みたい。

以上